

産業医

訪問

第1回

新日鐵住金株式会社

産業医 守田祐作氏

産業医科大で初めて育休を取得

私は産業医科大学を2007年に卒業しました。卒業後は産業医になると決めていたので、2年間の臨床研修で、できるだけ多くの科を経験することができ、医療機関を探し、埼玉県にある深谷赤十字病院を選びました。

その後は新日本製鐵君津製鐵所の宮本俊明先生の下で1年間、産業医としての研修を受けました。当時、君津製鐵所では約4000人の社員を対象に、健康診断の診察に加えて診療所での外来診療も行っていました。また職場巡視は、月1回では全部回るのに3〜4年かかるため、毎週行いました。

週の半分は健康診断の診察をし、残り時間で職場巡視の記録を書いたり、レントゲンの読影などを行いました。とても大変でしたが、その分多くの経験を積むことができました。

君津での現場研修の後は産業医科大学に戻り、嘱託産業医と研究の2本立ての活動に取り組みました。嘱託産業医としては、食品工場や造船業、製鉄



所の子会社、産廃処理業者、農協、IT企業、鉄道会社などを担当しました。

大学では、大和浩先生の健康開発科学教室に入りました。ちょうど、担当していたIT企業がストレスチェックを始めることになったので、それなら「ストレス対処能力SOC」を入れて欲しいと提案し、研究対象としました。SOCが低い人ほどメタボリックシンドロームが多いという研究結果は、私の学位（博士）論文になりました。大学での卒業後修練コースは通常2年

ですが、私は1年間育児休暇を取ったため、もう1年長く在籍しました。産業医科大で育休を取ったのは私が初めてでした。育休中の1年間は妻も休んでいたのですが、その間の子育ては思ったほど大変ではありませんでした。大変だったのは妻が復学してからです。

妻は社会人大学院に通っており、15時に家を出て23時に帰ってくるので、保育園の送迎から、食事、風呂、寝かしつけの「コアタイム」をほぼ私が担当しました。大変な毎日でしたが、おかげで仕事の効率化を考えるようになりました。今でいう働き方改革に先行して取り組んだ感じです。男性の育児を後押しすることで、長時間労働の改善に寄与するのではと考えています。

「EBOHの会」を立ち上げ、勉強会を開催

その後は、当社の名古屋製鐵所に就職しました。製鉄業では、他の事業所では見ることができない巨大な設備の中で多様な有害業務が行われます。嘱託産業医としてさまざまな企業を見てきた中で、製鉄業の産業医にやりがいを感じ、当社に「入り直した」のです。

名古屋製鐵所では、先輩の産業医と2人で喫煙対策検討会を立ち上げ、計画的に対策を推進しました。当初400カ所ほどあった喫煙所を、100カ所近く削減しました。

禁煙治療は、診療所の禁煙外来で行

いました。禁煙達成者へ景品を出して、禁煙を促進しようと考えたところ、もともと吸わない人は何ももらえないのに不公平だという声があがったため、禁煙した人をサポートした周りの人も景品を出すように工夫し、周りの理解を得ました。

2017年の7月に東京の本社に異動してからもうすぐ1年になります。本社は営業職がほとんどで、鉄を作っている人は1人もいません。まるで別の会社に移ったかのようです。

本社の守備範囲は非常に広く、海外にも500人ほど派遣されていて、その人たちの健康管理も行います。また、営業の支店が全国に10カ所あり、そこも年に1回巡回して全員と面談します。

これらの業務を、私も含めて今は4人の産業

医で対応しています。

最近東京で、科学的根拠に基づいて就業制限を考えることを目的とした「EBOH (Evidence based occupational health) の会」を立ち上げて、隔月で勉強会を開催しています。

復職や就業制限などの判断は、医師の感覚ではなく、科学的根拠に基づいて行うべきとの観点から、論文を調べするなどして、さまざまなケースに対して医学的に自信を持って対応できる「ワンランク上の」産業医になることを目指しています。